

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500200		
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会		
事業所名	グループホーム福岡	ユニット名(本館・新館)	
所在地	福岡県福津市上西郷738番地		
自己評価作成日	平成24年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「その人らしく」を尊重し、毎日を安心して楽しく過ごして頂けるように、支援しています。
 ・一人ひとりに合ったケアを実践し、皆と一緒に笑い、助け合える暮らしに取り組んでいます。
 ・地域の中で周りの方との交流を深め、互いの活性化ができるようにボランティアの呼びかけ等を行っています。
 ・グループホーム福岡では、今後共スタッフと利用者ご家族とのより良い関係を築いていきます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然環境に囲まれた小高い場所に広大な敷地を有し、ゆとりある広々とした居住スペースが印象的なホームである。母体法人は福津市内で様々な介護事業を展開しており、職員育成や専門職の連携、行事や災害対策におけるマンパワーの確保等にスケールメリットを発揮し、サービスの向上に活かしている。現在、新管理者のもと、生活の営みや充足感を感じられる日々の暮らしとなるよう、画一的ではない、個別ケアの充実に向けた様々な働きかけや立案が行われており、本質的なサービスの向上に取り組んでいる。また、家族機能の維持、活用や、ライフスタイルの継続を重視し、穏やかな日常や心身の活性化に結び付けるよう取り組んでいる。「その人らしさ」に共に向き合いながら、今後の地域拠点としての活動展開が大いに期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年5月17日	評価結果確定日	平成24年7月4日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作り上げた理念を各ユニットの玄関付近に掲げ、常に意識し職務に当たる際の心構えとしている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念は、職員全員の意見をもとに、話し合いを行い、作成されている。理念の具現化に向けて、その人らしさの追求や個別対応の充実に向けた新たな取り組みも始まっており、実践に結び付けるよう取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物の周りには民家が少なく日常的な交流は難しいが、地区の清掃活動への参加や市内の保育園との交流などを行なっている。	緑豊かな自然に囲まれた高台に位置し、同法人施設が隣接する他には民家は少ない。ボランティア(お茶・ハーモニカ・フラダンス等)の来訪の機会も多く、芋ほり等の行事を通じて保育園児との交流の機会もある。地域の民生委員の方々に向けて介護保険制度に関する情報提供を行ったり、蓮華草の会(認知症セーフティネットワーク)での活動を通じて、地域への働きかけを行っている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が主催する「認知症啓発事業」へ参加し施設の概要や取り組みの紹介を行なうことや「認知症セーフティネットワーク」に取り組み、積極的に参加を行なっている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行ない、活動状況の報告、又、取り組みに関しての意見交換を行なっている。	運営推進会議は、家族代表、区長、民生委員、市職員、法人理事長、常任理事等の出席により、定期開催されている。運営状況やホームでの取り組みについて報告が行われ、出席者との活発な意見交換や情報提供を受け、運営への反映に努めている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員とは日頃から連絡のやり取りを行なっている。地域密着型サービス事業所の連絡会や運営推進会議等でも互いに協力関係にある。	運営推進会議には、市担当者の出席を得ている。また、地域密着型事業所連絡会や福岡市認知症ネットワーク(蓮華草の会)、キャラバンメイト連絡会等の活動や勉強会を通じて、市町村担当者と連携を深めている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設が行なっている身体拘束防止委員会への出席、又、勉強会の中でも議題に取り上げ定期的に再確認しあえるようにしている。	法人として、身体拘束防止委員会が設置されており、ホームからも職員が参加し、共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。個別のリスクの検討や家族の理解を育むよう話し合いを重ね、安全面への配慮と普通の暮らしの営みを大切に支援に努めている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の職員に講師を依頼し、勉強会を実施している。職員間でも注意を払い防止に努めている。	

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に外部の講師を依頼し、日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての見識を深めている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、関係機関への講師依頼も含め、年1回、研修を実施しており、職員の理解を深めている。また、資料を整備し、家族会等にて報告を行う等、情報提供にも努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者ご本人、又はご家族に対し個別にお話をさせて頂き、署名・捺印を頂いている。重要なお知らせについては文章を個別に郵送して、ご連絡やご相談も随時受け付けている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3~4回程家族会を行っており、内容を議事録としてまとめ閲覧可能な状態にしている。家族との連絡ノートも作成し活用に努めている。	年4回、家族会として観桜会や食事会を実施し、ディスカッションの時間を設けている。また、家族からの提案により、全家族との連絡ノートを作成し、意見や要望の収集や情報の共有に活かしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を設け意見の反映を試みているが、中には不満を感じている職員がいる。	管理者の交代があり、まずは随時の小ミーティングを重ねながら、職員意見の収集や、支援の方向性について共有認識を図っている。あくまでも入居者主体のサービス提供に向けた職員育成を図り、その実践に向けて風通しの良い職場環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与ややりがいの面において不満を感じる職員がいる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用については性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないと思われるが、母体施設が統括している為不明。社会参加や自己実現を含め、休暇等については配慮しているつもりではあるが、不満を感じる職員がいる。	法人としての、募集、採用となり、管理者は、入居者の意向や職員体制のバランスについて鑑み、採用担当者への要望を行っている。職員個々の家族状況にも配慮しながら、公休や有給休暇の取得、また産休や介護休暇の取得に配慮し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。資格取得に向けた実技講習会や、取得手当の支給等、スキルアップやモチベーションの確保に向けて取り組んでいる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	委員会活動や研修に参加する事を行なっている。理念の中でも「その人らしく」と謳っており入居者の人権尊重に努めている。	人権擁護や認知症に関する勉強会を実施し、職員への人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については希望者又は人選によって参加をすすめているが、外部研修が減ってきている。勉強会を実施して学ぶ機会の確保に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症セーフティネットワークへの連絡会への参加や市が主催するイベントなどで管理者は交流する機会があるが、他の職員は交流の機会が少ない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前にご本人とゆっくり話をすることで思いや困っていることを聴き、又、体験利用の機会を設けること等で少しでも不安解消につながればと考えている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聴き、心情に配慮したお話をするように職員全員が気をつけている。困っていることや不安なこと等をしっかり聞くようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向に沿って無理なく柔軟な支援を行なうように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理の下準備、草花の手入れなどを一緒にこなして頂いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊の支援や施設の手入れ、又はイベントの準備などを頼める関係であり継続に努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚の方や知人の方と過ごす時間の支援を行なっている。入居前からの教会への礼拝や神父さんの訪問等にもご家族と共同で支援している。	馴染みの美容室の利用については、送迎も含めたかわりがあり、新聞や雑誌の講読等、これまでの暮らしの継続を支援している。ミサへの出席や神父さんの定期的な訪問、居室づくり等、信仰の継続を支援している。	

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や体操等の時には声かけを行ない、なるべく入居者同士の関わりが持てるように支援している。入居者同士の会話にはトラブルがないように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても相談や支援を行なっていく様に努めている。月に一度程は退居された方が遊びに来てくれている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共に行う中でご本人の希望や意向を聞く、又は感じ取れるように努めている。	日常の暮らしの中での関わりを重視し、思いや意向の把握に努めている。個別の生活歴やライフスタイルの把握を、現在働きかけを行っている個別支援の充実や認知症へのアプローチへと結び付けるべく、取り組んでいる段階である。	アセスメント情報としては、生活歴やライフスタイルに関する記述は少ない。職員個々が持つ情報の共有や新たな観察視点の確保も含め、様式の工夫や充実が望まれます。また、職員間の協議を重ね、日々のかかわりや介護計画作成に活かしていくことも期待されます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方、環境などを用紙にまとめ、新たに気付いた事、聞いた事を書き込むことでその方の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが気付いた事の申し送り、毎朝のバイタルチェック時の会話でご本人の状態などを把握するようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートや毎月のモニタリングへの書き込みをカンファレンスの際に話し合い現状に即したプランの作成を目指している。	本人本位の視点から介護計画が作成されており、細やかな観察がうかがえる、個別性ある内容が確認できる。毎月のモニタリングや3ヶ月毎にアセスメント情報を更新し、カンファレンス等にて協議を行いながら、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテや申し送りファイルを活用しているが、情報の共有が徹底してない時があるので、実践や介護計画の見直しに活かされてない時がある。		

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや要望にいかに応えるかを考え、今まで行なってきたことがなかったことにも積極的に取り組むような姿勢でいるが、人手不足で行えないとの意見もある。			
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科による診療やボランティアの方によるレクリエーション、民生委員や消防の方の訪問など協力し支えあう支援を実施している。			
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望された医療機関に受診し、情報交換ができるように支援している。	本人、家族の希望による、入居前からのかかりつけ医への受診を継続しており、家族との情報共有に努めている。また、隣接する老健施設の専門職との連携も図りながら、適切な受診や健康管理に努めている。今後想定される医療ニーズに対応するためにも、往診体制の確立を検討しており、医療機関との連携体制の充実に向けて取り組んでいる。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在1名の看護師が在職しており、看護、介護の両面で入居者の支援を行なっている。又、母体施設の医師や看護師の協力も得られる。			
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に病院関係者と情報の交換を行ない、早期の退院に向け協同している。			
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けてはできる範囲でご本人やご家族の意見に沿う形で支援していきたいと思っているが、具体的な話し合いができていない。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた方針を説明している。入居者、家族の意向については、日々の関わりや面会時の聴き取りを通して、把握に努めている。これまでに看取りを支援した経緯はないが、医療機関や家族との連携も含め、今後の支援体制の構築に向けて、検討を重ねていく予定としている。家族の宿泊室が設けられている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し全職員周知を行っている。勉強会の時に消防士に来てもらい心肺蘇生の訓練等を行なっている。			

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練(総合訓練)を入居者まで含め年2回実施している。地域との協力体制については呼びかけ中である。	消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練が実施され、入居者全員が参加し、近隣の同法人施設職員が実際に駆け付ける。また、訓練後にはミーティングが行われ、現状や課題について再確認が行われている。運営推進会議等を通じて、地域との協力体制について話し合いが行われ、区長の計らいにより、地域消防団への協力要請も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いや人格を尊重し、丁寧で温かみのある対応を心掛けている。つい反省する事もある。	各居室にはトイレや洗面が設置され、また、職員が入室する際の配慮からもプライバシー空間であることへの意識が感じられる。伝わる言葉、親しみのある対応として方言等の使用は否定せず、ミーティング等にて振り返る機会を持ちながら、尊厳を損ねない対応となるよう心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出やレク活動、行事などでもご本人の意向を尋ね自己決定できるように働きかけを行っている。表情やしぐさから思いを組むこともある。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者全員がその日の希望通りとはいかないが、食事や入浴、外出をその時の状態を加味して、入居者のペースで行えるように気をつけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の衣類を選び身だしなみを整えられるように支援している。又、訪問理容のご利用や希望の美容院へ行くことの支援も行なっている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化などにより出来ることが限られてきているが、一部分の利用者は職員と一緒にテーブル拭きや片付け等をしている。	入居者の嗜好や栄養バランスに配慮しながら献立が作成され、買い物から調理までホームで行っている。和やかな食事風景と、後片付け等への自発的な参加が見られた。行事食や外食を楽しむ機会もあり、個別の状態を鑑み、嗜好品の摂取にも柔軟な対応が行われており、これまでの暮らしの継続を支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「おいしく食べて頂くこと」をモットーに一人ひとりに応じた支援をしている。食事の摂取量のチェックを行っている。		

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをその方に応じ、声かけや介助、義歯の洗浄等を行なっている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動や様子からトイレへの誘導などを行ないなるべく失敗を減らし、トイレでの排泄ができるように支援している。排泄チェック表の活用も行なっている。	入居年数の長い方も多いが、常時おむつを使用している方はいない。必要な方には、排泄チェック表を活用したパターンの把握や、様子の変化やサインを見逃さないようにし、さりげない支援を心がけている。各居室にトイレが設置されている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫を行ない便秘予防に努めている。排泄チェック表での確認を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)を入浴日としているが、入居者の希望やタイミングに合わせて、ゆっくりと入浴してもらうように対応している。	本館の大浴場や新館の一般個浴、家族室にも浴室が設置されており、希望や状況により柔軟な対応が可能となっている。本館には各居室にシャワー室が設けられている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで一日が過ごせ、休息は自由に出来る。安眠できるように乾燥防止や水分補給、室温調整なども個別に対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと服薬支援を行っている。薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、庭の手入れ、草花の世話、カラオケ、ゲームや作品作りなど個人が望まれることの支援に努めている。ショッピングに出かけた時には自分が食べたいもの、欲しいものなどの購入の支援を行なっている。		

福岡県 グループホーム 福岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は入居者の希望に応じて外出することがある。外食やドライブも行っている。家族と一緒に日帰り小旅行も実施している。</p>	<p>小高い場所に広大な敷地を有し、周囲は緑が多く、中庭に面した広縁もあり、気軽に外気浴を行うことが出来る。月2回の買い物や、日常的な散歩も含め、個別～少人数での外出を支援し、喫茶を楽しんだり、ホームセンターへ畑作りの道具を買いに出かける等、目的を持った支援が行われている。現在、「散歩クラブ」を企画し、更なる外出支援の充実にに向けて取り組んでいる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了承があればご本人にお金を所持してもらっており、外出の時に買い物ができるように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>現在あまり手紙や電話をかけられる方が少なくなっているが、手紙を書いたり、電話をかけたりされる時の支援は行なっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・廊下・食堂・リビングなどゆったりとした広さがあり、縁側からは中庭の花などが楽しめる。本館は造りのせいか照明が暗く感じる。</p>	<p>玄関ホールには、入居者により活けられた見事な花が飾られており、来訪者を迎えてくれる。また、ホーム内各所にも、生花や折り紙作品がさりげなく飾られており、日常に潤いを与えている。本館、新館と作りは異なるが、どちらも十分な広さが確保され、ゆとりある空間作りは特筆すべき点である。各所に設置されるソファーや和室等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所が確保され、中庭ではプランターでの野菜作りも行われている。グループホームとしてのリハビリ室が併設されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングだけでなく、縁側にもソファーやマッサージチェアを置き、思い思いに過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前使っていたものや使い慣れたものはご家族が持ってこられ、自室に置かれている。ご本人の希望に合わせるようにしている。</p>	<p>ゆとりある広さの各居室には、トイレや洗面、シャワー室(本館)が設置されており、ソファーやベッド、クローゼットが備え付けられている。その人らしさや生活感ある居室が多く、プライバシー空間であることの意識も高い。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できる限り自分でして頂くことをすすめ、失敗や混乱があっても過剰に反応せず、できることが増えるように安全性に気をつけて工夫した支援を行なっている。</p>		